



ダイジェスト版

テーマ「安心できる居場所」

1. ええやんピープル
2. 安心できる居場所ってどんなところ？
3. 好きなことってなんだろう？
4. さぼらんて学生スタッフ体験談/レシピ

2～4は
本紙で
ご覧ください

みんなが主役！誰もが心豊かに暮らせるまち山口を目指して、はじめの一步を応援する市民活動情報紙

生きづらさを力に変えて ～大人に届け！子どものリアル～

副代表 **さりちゃん**
山口市出身。二人姉妹の妹。小学3年生の頃、朝起きられなくなり、4年生の時に起立性調節障害と診断され、6年生で完全不登校となる。現在は体調を見ながら高校に通っている。ギターと、歌うことが好き。

代表 **がっくん**
宇部市出身。4人きょうだいの末っ子。2歳の時に自閉症、軽度知的障害、ADHDと診断される。小学生の時から総合支援学校に通っている。エヴァンゲリオンと、マシンで作業することが好き。

副代表 **れんくん**
山口市出身。一人っ子。障害特性から感覚過敏がある。小学1年生の時からいじめが原因で中学3年生まで不登校になり、母が運営するフリースクールで9年間通って来た。現在は通信制高校に通っている。ゲームと、猫と遊ぶことが好き。

Photo/ まえださとこ

立ち上げのきっかけ

見た目では分からない生きづらさを抱えた高校生が「誰もが生きやすい社会にしたい！」という思いで、それぞれの経験を大人たちに向けて発信するために市民活動団体を立ち上げました。つらい過去を乗り越え、前を向いて生きる3人に活動に対する思いなどを伺いました。

自分たちの声を届けたい

自分たちは、それぞれの場所で違った生きづらさを抱えてきました。がっくんは気持ちを言葉で表現することや初めての場所、人が苦手で、小さい頃は多動やパニックもあったのですが、障害がある自分の状況を周囲に理解されず、できる前提で話をされて、とても苦しくなることがありました。れんくんはいじめに遭っ

3人はもともと仲が良かったわけではなく親を通じて顔を知っている程度だったんですが、2024年12月に生きづらさを抱える当事者として講演会に3人で登壇したことをきっかけに親しくなりました。つらかった経験を話すのに緊張しましたが、自分たちの言葉で話せたことで、今までつらかったことが昇華されていく感じもありスッキリしたんです。何より、大人たちが自分たち子どもの話を熱心に聞いてくださり、「話してくれてありがとう」と受け入れてくれたことで手応えを感じました。終了後に運営メンバーの人たちと打ち上げに行き、みんなでフードコートで盛り上がりつつうちに、自分たちのつらかった経験や体験を大人たちに伝える活動がしたい！という思いが重なり、みんなの種を結成しました。

「たくさんさんの人の前で話すのは怖くないの？」と聞かれることがあります。3人で一緒にいるからこそ、自分たちの気持ちを伝えたい思いが不安より勝っています。好きなことも得意なことも全然違

誰もが生きやすい社会を目指して

たことが原因で死にたいと思うようになるぐらい追い詰められ、さりちゃんも起立性調節障害を理解して支えてくれた。た先生が全員異動したことで孤立感に耐え切れなくなり、学校に行けなくなってしまういました。これらの経験はすべて小学生の頃の出来事です。大人の対応によって傷つく子がたくさんいて、自分たちの経験や、その時の気持ちを大人に向けて発信していけば、今苦しんでいる子たちを救えるんじゃないかと考えたんです。

大人の理解が広がるように

団体を結成して一年経ち、校長先生や養護の先生たちの勉強会、県の教育者の勉強会、市内の小学校での人権講演会などいろいろなところでお話しをさせていただきました。多様な人たちの考えや意見を聞ける、貴重な機会をたくさんいただいています。特に印象に残っているのは、自分たちが初めて主催した「みんなねフェス」です。フェスでは児童精神科医の先生とパネルディスカッションを行ったのですが、先生が自分たちの話をじっくり聞いてくれて、特性を理解し、認めてくれたのが嬉しかったです。こうやって、いろんな立場の人に自分たちの声を聞いてもらい、生きづらさへの理解を広げるため、今後もイベントや講演会に登壇していきます、経験談をもっとたくさんさんの大人に伝えたい気持ちがあります。

本紙はこちらから

WEB版



ええやん新聞公式note

PDF版



ええやん新聞ホームページ

みんなの種 ～Seeds for All～

全ての人が自分らしく笑顔でのびのび生きていける社会環境を目指して、不登校、発達障害の当事者が立ち上げた市民活動団体。2009年生まれの高校生3人が自分たちの気持ちを知ってもらうため、当事者の視点から講演会活動などを行っている。3人を支える活動サポーターの大人を募集中。



3人が親しくなるきっかけとなった講演会で、自分の経験談を話すれくん

うけど、他の人には言いにくい心の奥の方まで話せるぐらい信頼し合っているんです。なので、これから3人で、生きづらさを持った人たちの気持ちを自分たちが代表して大人たちに伝え、みんなが生きやすい社会になるように活動していきたいです。

クイズに答えてドリンクチケットをもらおう

本紙を読んで答えを見つけてね♪

ハガキまたはメール、もしくは右のQRコードより以下を明記のうえ、さばらんでまでご応募ください。

応募フォーム



1. お名前・郵便番号・ご住所・年齢・職業・電話番号
2. クイズの答え
3. ええやん新聞を手に入れた場所
4. ええやん新聞33号へのご意見、ご感想
5. 取り上げてほしいテーマ、市民活動団体

※ご記入いただいた個人情報は、その目的以外での利用はいたしません。

ノンカフェインで肌荒れなどに効くお茶、さっぱりハーブティー、深煎り焙煎珈琲など…jikkaこだわりのお飲み物をぜひお料理と一緒に楽しみてください。



ドリンクチケット

10名様

締切 2026年 5月31日

当日消印有効。当選者にはドリンクチケットを郵送させていただきます。

ソルシオアカデミーが生きづらい人のために作っている居場所は？
〇〇〇〇〇〇 カフェ

本紙『ええやん新聞』配布先および設置場所

配布…山口市小中学校、総合支援学校、特別支援学校など

配置…さばらんで(バックナンバーあり)、山口市役所、各総合支所、各地域交流センター、各市立図書館、各保健センター、山口情報芸術センター、やまぐち県民活動支援センター、ほっとさろん中市「まちのえき」、各地域子育て支援拠点施設(子育てひろば)、やまぐち子育て総合福祉センター、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学、維新ホールmegriba、山口市内マルキュウ・アルク店舗 など

発行元

山口市市民活動支援センター さばらんで

〒753-0047 山口市道場門前 2-3-6 どうもんビル1階

TEL 083-901-1166 メール info@saporant.jp



LINEで
さばらんでから
のお知らせを
配信中♪

次号もお楽しみに♡



さばちゃん らんちゃん



てつて